

ナ以テ貨幣ニ代用セシトアリ魯西亞ニ於テハ古代ヨリ第一世「ロエール」帝ニ至レル年間ハ凡テ革ヲ以テ貨幣ニ代用シタリ現今猶ホ「ラポニ」ニ於テハ毛皮ヲ買收スルニ買草ヲ使用ス然レモ前述ノ如ク商物ヲ以テ貨幣ト見做シ之ヲ使用スルハ貿易上ノ不便少ナカラス故ニ左ニ掲クル性質ヲ保有セル品物ニアラサレハ貨幣タルヲ得サルモノトス

- 一 特ニ約束上ノ價格ノミニアラスシテ固ヨリ眞價ヲ有シ公衆ノ之ヲ所有セント希望スルモノ
- 二 永久其價格ヲ變替スルコトナク且ツ磨滅スル

- 三 諸種ノ物品ヲ買收スルノ尺度トナリ之ヲ細分スルモ其價格ニ差異ヲ生スルコトナキモノ又容易ク其質ノ眞偽ヲ鑑定シ得ヘキモノ
 - 四 運輸ニ輕便ナルモノ即チ容積至少其量至輕ニシテ最大ナル價位ヲ有スルモノ
 - 五 公衆ノ價值ヲ確認シ易キモノ即チ其之ヲ表證スヘキ印刻ヲ受ケ易キモノ
- 古今前項ノ各性質ヲ含有スル所ノ商物ハ即チ金、銀ナリ金剛石及ヒ其他ノ寶石等ハ分部ニ難キ性質ヲ有シ且ツ表證スヘキ印刻ヲ付スルニ難キモノナリ開明國ノ人民ハ皆ナ此金銀ノ兩鑛ヲ撰用シ以テ貨幣トシテ通用スルニ至レリ

古來此金銀ノ兩鑛ヲ以テ一定ノ徑度、重量ヲ有スル
圓面ノ貨幣ニ鑄造スルノ慣例トナレリ而シテ其兩
面ニハ國法ニヨリ定ムル所ノ印章ヲ付シ徽章或ハ
細微ノ齒形ヲ以テ其緣ヲ裝ヒリ
純金銀ハ其質至軟ナルニヨリ之ヲ堅固ニセンニハ
他ノ鑛屬(通例銅)ヲ混和セサルヲ得ス佛國貨幣ノ和
量ノ比較ハ金(銀)十分ノ九ニシテ銅十分ノ一トス米
國モ亦然リ英國ノ金貨ハ其比例十二分ノ十一ナリ
是レ窮理家「カハン、ジッシユ」氏及ヒ「アセツト」氏ノ試驗
ニ係ルモノニシテ金貨ノ保存ニ在テハ最適ノ方法
ナリ

(ピロソノ貨幣) 今世各國ニ於テハ金銀貨幣ノ他銅

貨ヲ製造シテ之ヲ通用スルニ至レリ
銅貨ハ金銀貨幣ト異ナリ之ヲ以テ買收スル物品ノ
價值ニ相當セル價位ナキ商物ニシテ即チ金銀ヲ以
テ鑄造シ難キ至微ノ價值ニ充ツルモノナリ故ニ政
府ハ「ピロソ」ト稱スル銅貨ヲ鑄造シテ之ヲ通用セシ
ニハ其鑄造額ヲ制限セサルヲ得ス何トナレハ貿易
上該銅貨ヲ用ユルヲ無量ナルキハ其價值ハ直チニ
下落シ其眞價ニアラサレハ之ヲ通用セサルニ至ル
ヘケレハナリ
佛國ニ於テ銅貨ヲ使用スルハ特ニ端錢ニノミ限レ
リ一千八百十年ノ法憲ニ據テ一般ノ受拂上ニ使用
スヘキ銅貨ノ最上限ヲ五法ト定メタリ

又銀貨中ニ於テモ二十參、五十參、一法、二法ノ如キ至
微ノ價值ヲ有スル五種ノ貨幣アリ即チ一千八百六
十六年ノ貨幣條約ニ據テ締結シタル佛朗西、白耳義、
伊太利、瑞西ノ各國ニ於テ使用スルモノニシテ是レ
亦眞價ヲ有セサルヲ以テ即チ「ピロン」貨幣ノ一種タ
ルヲ免カレサルモノナリ
前條ノ條約ニ係ル各國政府ハ其鑄造セル該銀貨ヲ
受領スルト無限ナリト雖モ各個ハ自他ノ區別ナク
其受拂上五十法以上ニ至レハ其受領ヲ拒絕スルヲ
得ヘシ又各國政府ニ於ケルモ該銀貨百法以上ヲ領
收スルニ際シ若シ其外國鑄造ナルトハ之ヲ拒ムト
チ得ヘシ

(貨幣ノ功用) 貿易上貨幣ノ功用ヲ誤解スルモノ多
キヲ以テ大ナル誤謬ヲ生スルコトアリ故ニ今茲ニ一
言ヲ掲ケ以テ其要點ヲ說示セントス
世人ハ往々貨幣ヲ以テ財ト誤認シ自ラ許多ノ貨幣
ヲ所有スレハ乃チ富者ナリト思慮セリ其思考ハ交
際社會ノ實況ニ隨ヒ理非反對スルコトアリ即チ許多
ノ貨幣ヲ所有シ其思欲スル所ノ物品ヲ買收スルコ
ト得レハ之ヲ富者ト謂フモ可ナリ然レモ一國人民
ニシテ許多ノ貨幣ヲ有スルモ財即チ麥、絨、羊毛、其他
日々生計上必要ナル費消物ヲ有スルコトナク專ラ外
國ノ輸入ヲ仰ケル者ニ在テ若シ事故ニ因リ其輸入
頓ニ斷絶スルニ及ンテハ假令巨萬ノ貨幣ヲ有スル

モ果シテ何ノ益カアラン無用ノ長物ト謂フヘキナ
リ班牙國ニ於テ數年間此ノ如キ狀態ナリシハ衆
人ノ了知セシ所ナリ
一國人民ハ其貿易上ニ要スヘキ充分ノ貨幣ヲ所持
セサルヲ得ス然レモ其額ハ制限ヲ概定セサルヘカ
ラス若シ之ヲ鑄造スルヲ制限外ニ出ルキハ唯タ物
價ヲ騰貴ナラシムルノミニシテ毫モ社會人民ニ裨
益ヲ與フルコトナシ
貨幣ハ固ヨリ媒介商物ナルヲ以テ其固有ノ性質ヨ
リ寧口之ヲ價值名代ノ性質トスルニアラサレハ其
功ナキカ如シト言フモノアリ此ノ如キ說ヲ主張ス
ルハ甚シキ危害ヲ醸生スルニ至ルヘシ又一步ヲ

進メテ之ヲ論スレハ何ソ金銀ノ如キ鑛物ヲ撰ンテ
價值ノ名代トスルニ及ハンヤ片紙ヲ用井ルモ猶ホ
其用ヲ辨スヘキハ疑ヲ容レス紙幣發行ノ考案ハ即
チ是ニ起因セシコト明カナリ
始メテ紙幣ヲ發行セシ時ニ當リ人民ノ信用ヲ得ン
カ爲メ土地ノ如キ不動産ヲ以テ其抵當保證ト爲シ
以テ紙幣ヲシテ其眞價ヲ保タシメリ然レモ其發行
ノ容易ナルヲ以テ暫クニシテ之ヲ製造スルコト其抵
當外ニ出ルニヨリ其價格ハ愈下落シテ底止スル所
ヲ知ラサルニ至レリ佛蘭西ニ於テ使用シタル紙幣
ニテ因生シタル弊害ハ即チ是レナリ
(貨幣ニ關スル政府ノ管掌) 前條ノ論旨ニ由テ之ヲ

觀レハ政府ト雖モ不正ノ價值ヲ貨幣ニ附スルコト能
ハス又其變動ヲ遏止スルコトヲ得サルヘシ故ニ政府
ニ於テ貨幣ノ管掌ハ其偽造者ヲ罰シ其製造事務ヲ
監視シ金銀貨幣ノ比準價格ヲ定メ兩鑛中其一ヲ撰
用シ以テ本位ヲ定ムルニ在リ
貨幣ハ一定ノ容積及ヒ混和鑛屬ノ分量ヲ保有シ眞
正ヲ表証スル爲メ其兩面ニ印刻ヲ有スヘキモノト
ス故ニ開明諸國ニ於テ貨幣ノ鑄造ハ之ヲ人民ニ委
セスシテ政府自ラ之ヲ管掌ス然レモ其鑄造ノ方法
ニ至リテハ諸國各異ナルナリ即チ英國ノ造幣局長
ハ官吏ナルモ佛國ニ於テハ之ヲ請負人ニ委セ政府
ハ唯々其監視ヲ掌トルナリ各國政府ニ於テモ亦人

民ノ依頼ニ由テ其鑄造ヲ許諾ス英國及ヒ米國ニ於
テハ其鑄造費ヲ受領セサルモ佛國ニ於テハ銀八百
ニ就キ四分ノ三金八千分ノ二ノ比例ヲ以テ之ヲ收
納スルナリ
金銀兩貨幣ノ價值ハ自他鑛屬ニ關セス自ラ其變動
ヲ爲スモノナリ故ニ其比較ノ價位ハ一般商物ノ價
値ニ均シク其變動ヲ生スルニヨリ豫テ其比較ノ價
値ヲ定ムルノ難キハ論ヲ俟タスシテ明カナリ法朗
西ニ於テ貨幣法憲ヲ以テ金鑛ハ銀鑛ノ十五倍半ニ
位スルモノト定メタルモ是レ一時ノ價格ニシテ始
終變動セサルモノト謂フヘカラサルナリ
故ニ金銀兩鑛中其一ヲ撰ヒ貿易上ノ本位貨幣ト定

メ自他鑛屬ハ其補欠商物ト爲シ或ル定限ノ分量外ニ出ルモトス而シテ日々其相場ヲ定ムルモノト爲セリ然レモ金銀兩鑛ノ中其一ヲ棄却スルノ謂ニアラス蓋シ兩鑛ハ唯々其性質ニヨリ互ニ欠ヲ補フヲ以テ決シテ偏廢スヘカラサレハナリ

金鑛ハ其容積至少其量目至輕ニシテ其價格高貴ナレハ運搬或ハ計算上大ナル便利アリ且ツ磨滅ヲ受クルト少ナシ銀鑛ハ此ノ如キ性質ヲ有セサルモ之ヲ細分スルヲ得ヘキモノナレハ小價ノ貨幣ニ適スヘシ

然レモ此兩鑛ハ各一利一害アルニヨリ其一種ヲ以

テ貨幣ノ本位ト定ムルハ頗ル難事ナリトス是レ各國商業上ノ慣例ニ屬スルモ貨幣ノ本位ヲ定ムルハ價值上變動少ナキ鑛屬ヲ撰フヲ以テ至要トスルナリ蓋シ金鑛ハ銀鑛ニ比スレハ其分拆製造入費ニ於テ變動少ナキモノトス隨テ其價值ニ差異ヲ生スルモ僅少ナリ故ニ宜ク之ヲ以テ貨幣ノ本位ニ撰定スヘシ

金鑛ハ其使用上磨滅ヲ受クルト最モ少ク之ヲ銀鑛ニ比スレハ金鑛ノ一ハ殆ト銀鑛ノ四ニ同シ例ヘハ銀貨ハ一ケ年千法ニ就キ十六參ノ磨滅ヲ受クルモ同額金貨ノ磨滅ハ四參トス此ノ如ク金貨ハ商業上妨害ヲ受ルト少ナケレハ宜シク之ヲ以テ貨幣ノ本

位ニ換用スヘキナリ佛朗西ニ於テ一千八百三年三月廿八日貨幣法憲ニヨリ金銀兩鑛ヲ以テ貨幣ノ本位ヲ定メタリ即チ一法銀貨ノ量目五貝(混和量銀四貝半銅半貝)二十法金貨ノ量目ハ六貝四五六一(混和量銀四貝半銅半貝)ト爲セリ前文ノ旨趣ニ基キ金銀兩鑛價值ノ比較ヲ以テ銀ノ十五半ハ金ノ一ニ對スルト確定セシハ大ナル誤リニシテ爲メニ大不幸ヲ招クニ至レリ其事由ヲ解示スルト左ノ如シ

一千八百十五年頃貿易上ノ景況ニヨリ自然金銀兩鑛ノ差十五四分ノ三ニ至リシキハ佛國ノ金貨ハ地ヲ拂テ外國へ輸出シ外國ヨリ佛國へ輸入スル所ノモノハ悉ク銀貨ナリキ示來金貨國內ニ充溢シ爲メ

ニ金銀兩鑛ノ差十五四分ノ一ニ至リシキハ金貨輸入ノ反現ヲ現ハシタリキ

是ニ由テ之ヲ觀レハ金銀中其一ヲ換用シテ本位ト爲シ他ハ補助通貨トスルハ最モ利益アルモノ、如シ然ラサレハ外國貿易上價值低落ノ貨幣ノミヲ輸入スルニ至ルヘキハ必然ニシテ一國ノ商業モ終ニハ衰頽スヘキハ論ヲ俟タサルナリ

信用貸

夫レ貨幣ハ日常ノ運搬上其不便少ナカラサルニヨリ貿易ヲシテ容易ナラシメンカ爲メ始メテ商業證券ナルモノヲ發行スルニ至レリ蓋シ該證券ハ種々ノ名稱ヲ付スルモ到底貨幣ノ名代的ニシテ名稱形

體ノ如何ニ係ハラス眞價ヲ有セサルモノトス故ニ
之ヲ所有スル者ハ財ヲ所有スルカ如シト雖モ其價
値ハ特ニ信用ノ一點ニ屬スルモノナレハ若シ信用
ナクシハ一片紙ト謂フモ可ナルヘシ
商業證券ノ發明ハ商業歷史上最モ善シキ事項ノ一
ニ居レリ何トナレハ該證券ハ貨幣ニ比スレハ便宜
ノモノニシテ且其運搬上最モ輕便ナルノミナラス
眞正貨幣ヲ以テ實際ノ受拂ヲ要セス資本ノ使用並
ニ融通ナシテ容易ナラシムレハナリ
信用貸トハ信用ニヨリ以テ負債ヲ爲スノ方便ニシ
テ即チ許多ノ資本ヲ有スル者ニ相當ノ利益ヲ付シ
他日之ヲ返償スルノ約束ヲ以テ金錢ヲ借用スルノ

謂ナリ
信用貸ハ各個ニ於ケルト均ク社會ニ於テモ善シキ
鴻益ヲ與フルモノニシテ即チ生産増殖國財増加ノ
根原ト謂フヘキナリ
信用貸ハ資本ヲ所有スルモ自ラ之ヲ使用スルコトヲ
欲セス或ハ之ヲ使用シ能ハサルモノ之ヲ有セサル者
ニ貸與シ以テ睡眠ノ財ヲシテ活用セシムルモノナリ
例ヘハ絨製造人ハ信用貸ヲ以テ其製品ヲ賣却セサ
ルルハ徒ラニ其買收者ヲ俟チ之ヲ製造場ニ蓄藏セ
サルヲ得ス故ニ信用貸ヲ以テ廣ク該品ヲ賣却スル
ルハ速ニ消費者ノ手ニ入ルニ至ルヘシ而シテ其資
本ノ貸與ニ於ケルモ亦然リトス

是ニ由テ觀レハ信用貸ハ借主ナシテ借金ノ利益ヲ支拂ヒ且ツ之ヲレテ勞動者ヲ維持シ得ヘキ作用ヲ爲サシメ貸主ハ其所有者ニシテ借主ニ對シ信憑ヲ置クモノトス而シテ信用貸ノ有無ハ大ニ社會ノ安寧休戚ニ係ルモノニシテ若シ國家紊亂ノ境遇ニ際セハ生殖ハ減少シ勞動者ハ其利益ヲ得ルニ疑念ヲ懷クニ至ルヘシ故ニ貸主ハ利益ヲ得ルニ難キヲ以テ懷其貸與ヲ止ムルナリ此ノ如キ狀景ニ至リテハ國財ハ忽チ費消シ隨テ人民ハ大困難ニ陥ルヘキハ論ヲ俟タス是レ東洋各國ニ於テ毎ニ見ル所ノ狀況ナリ

信用貸ハ三種ノ方法ニ由テ成ルモノトス

一 定期返償ノ約束書

二 商物抵當

三 不動産抵當

以上三種ハ私用ノ信用貸ト稱ス政府自ラ募集スル負債ハ公用ノ信用貸ト呼ビ特別ノ規則ニ準據スルモノトス

既ニ陳述セシ如ク商業ノ信用貸ハ商業證券即チ信憑証券ト稱スル各種ノ證書ニ據テ成ルモノトス其名稱左ノ如シ

一 受拂證券

二 爲換證券

三 振出證券

四 銀行證券

(受拂證券) 受拂證券ハ一商估ノ契券ニシテ他人ノ命令ニヨリ定期限ニ於テ若干ノ金額ヲ支拂フヘキ契約書ナリ其例左ノ如シ

一千八百七十二年八月十日甲商估何某ハ乙商估何某ニ三ヶ月ノ期內ニ於テ代價ノ支拂ヲ受クヘキ約束ヲ以テ一千法ノ商物ヲ賣却シ而シテ之ニ領證ヲ付與セリ乙商何某ハ甲商何某ニ左式ノ證券ヲ與ヘ彼我ノ計算ヲ全了スルモノトス

余ハ來ル十一月十日甲商何某ヨリ買收シタル商物ノ代價トシテ金額一千法ヲ本人或ハ其代人ニ仕拂フヘキナリ

一千八百七十二年八月十日

乙商何某

甲商估若シ丙商估ヨリ同一ノ金額ヲ借受シ居ルハ甲丙兩商估熟議ノ上丙商估ノ承諾ヲ得レハ該證券ノ裏面ニ左式ノ加書ヲ爲シ之ヲ丙商估ニ交付シ以テ其負債ヲ辨償レ得ヘシ

表面ノ金額若干法ハ定期ニ至リ丙商何某或ハ其代人ニ拂ヒ渡スヘキ

一千八百七十二年八月二十日

甲商何某

然ルル甲商估其負債ヲ返償シ丙商估ハ該證券ノ所有者タリ而シテ此證券ニハ毎回前條ノ如ク其裏面ニ加書シ甲ヨリ丙ニ於テル如ク漸次彼我交付スルハ定期ニ至ルノ間一片紙ヲ以テ數多ノ負債ヲ辨

償シ得ヘキナリ

(爲換證券) 爲換證券ハ甲商估ト同市街ニ居住セサル乙商估ヲシテ定期ニ於テ若干ノ金額ヲ丙商估或ハ其代人ニ仕拂フテ擔當セシムル證書ナリ
假令ハ在巴里府甲商估ハ「ポルド」地名ノ乙商估ニ五千法ノ負債アリ又乙ト同地方ニ在ル丙商估ニ同額ノ貸金アリ然ルハ甲商估ハ五千法ノ送付及ヒ丙商估ヨリ同額ノ金圓ヲ受領スルノ手數ヲ省カン爲メ左式ノ證券ヲ丙商估ニ交付ス

此證書ニ「ポルド」ノ乙商何某或ハ其代人ニ五千法ノ金額ヲ仕拂フヘシ

一千八百七十二年八月廿五日

巴里府甲商何某

在「ポルド」丙商何某殿

此證券ヲ以テ乙商估ハ丙商估ヨリ證券面ノ金額ヲ受領スルモノトス即チ一ノ仕拂ヲ以テ甲乙丙商估關係ノ貸借ハ全了スルモノナリ

又爲換證券ノ仕拂ニハ猶豫期限ヲ與フルコトアリ然ルハ證券ノ表面ニ特ニ仕拂定期ヲ明示スルヲ要ス

以上ノ例ニ由テ之ヲ觀レハ爲換證券ハ受拂證券ト稍ヤ異ナルモノトス蓋シ爲換證券ハ其受拂上ニ於テ第三ノ人ニ關係ヲ有スルノミナラス尙ホ甲地方ヨリ乙地方ノ受拂ヲ辨スルナリ
爲換證券ハ固ヨリ名宛人ニ於テ其責任ヲ有セサル

モノナレハ定期ニ至リ其仕拂ヲ謝絶スルニ當リ該
證券所有者ハ之ヲ被告ト爲スモ其効ナキモノトス
故ニ名宛人ニシテ之ヲ承諾サレハ其振出人ヲシテ
直チニ之ヲ仕拂ハシムヘキノ契約ヲ爲サシコトヲ要
ス
又該證券ノ仕拂期限永期ニ涉レルキハ其所有者ハ
定期ニ至リ名宛人ノ之ヲ仕拂フヤ否ヲ識得セシカ
爲メ豫テ其諾不諾ヲ照會シ承諾シタルキハ之ヲシ
テ定期ニ至レハ記載ノ金員ヲ仕拂フヘキ旨ヲ證券
ノ表面ニ明記セシムヘシ若シ然ラサル境遇ニ於テ
ハ其所有者ハ直チニ振出人ニ就キ其仕拂ノ請求ヲ
爲スカ或ハ定期仕拂ノ保證ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

爲換證券並ニ受拂證券ハ其裏書ニヨリ數人間ニ運
轉融通シテ定期ノ所有者ニ至リ終ニ止ムモノトス
故ニ若シ定期ノ仕拂ヲ拒絕シタル境遇ニ於テ其所
有主ハ滿期ノ翌日公正官調製ノ證書ヲ以テ其事由
ヲ證明セシム而シテ此證書ハ所有者ヲシテ振出人
及ヒ其裏書人ヲ被告トシ之ヲ出訴スルノ權ヲ與フ
ルモノトス
然レモ裏書人ニ對シ出訴スヘキノ期限ハ十五日間
トス此期限經過ノ後ニ在テハ裏書人ハ其關係ヲ免
レ唯タ責任ノ歸スヘキモノハ振出人ノミナリ而シ
テ其所有主ハ證券面金額ノ他尙ホ定期後ノ利子及
ヒ諸入費ヲ請求スヘキ權ヲ有ス

(振出證券)「セツク」トハ銀行へ金圓ヲ預ル者自ラ之ヲ運轉セズレテ其全額或ハ一部分ヲ使用センカ爲メ該銀行へ宛テ振出ス所ノ證券ヲ謂フ故ニ之ヲ有スル者ハ銀行ニ就キ證券面ノ金額ヲ受領スルヲ得ヘシ振出證券調製人ノ居住其銀行ト同市街ナルキハ振出シ當日ヨリ五日内ニ其仕拂ヲ請求スルヲ以テ通規トス若シ同市街ナラサルキハ其請求ノ期ヲ猶豫シテ二十日以内トス振出證券ヲシテ確實タル價位ヲ有セシメシニハ少クモ其仕拂ヲ爲スヘキ銀行ニ對シ「セツク」面ノ金額ト同額ノ預金アルヲ要ス振出證券ハ他ノ商業證券ト均シク其裏面ニ加書ス

ルキハ自由ニ之ヲ融通運轉シ得ヘシト雖モ其仕拂期限ハ常ニ短縮ナルヲ以テ實際之ヲ融通スル境遇ノ如キハ甚々稀ナリ前條細説ノ諸證券中殊ニ受拂證券爲換證券等ハ之ヲ裏書證券ト謂フ而シテ該證券ハ貨幣ト同一ノ融通ヲ爲シ得ヘキヲ以テ甲地方ヨリ乙地方ヘノ受拂ハ正貨ヲ用井ルニ及ハサルヘシ故ニ最モ緊要ノモノタルハ辨ヲ俟タスシテ明カナリ故ニ裏書證券ハ貨幣ノ代用物ニ外ナラス正貨ト均シク一ノ商物タルヲ以テ兌換ト稱スル特別商業ニ據テ之ヲ授受賣買シ得ヘシ證券ノ價位ハ其裏書人ニ隨テ變替スルモノナラン

今其價值ヲ昂低スルノ原因ヲ示ス_レ左ノ如シ

一 記名者ノ身代

一 仕拂期限ノ長短

一 仕拂ヲ爲スヘキ地方

故ニ巴里府内融通ノ證券ハ商業ノ關係少キ小市街ノ證券ニ比スレハ希望者最モ多シトス又爲換證券ハ之ヲ賣買スルニ其記載ノ金額ヨリ高價ナル_レアルヘシ何トナレハ買收人ハ現金運轉ノ煩勞ヲ省キ一定ノ地方ニ於テ之ヲ受領シ得ヘキノ利便ヲ受ク_レハナリ

然リト雖モ若シ定期限前ニ於テ裏書證書ヲ以テ現金ト兌換スル_レハ其不足日數ノ利子ニ相當スル損

金アルモノトス

(銀行證券) 銀行證券トハ即チ公立銀行或ハ政府ノ保護ニ係ル銀行ニ於テ發行セル爲換證券ニシテ裏書ヲ要セス_レテ自由ニ運轉融通スヘキモノナリ蓋シ該證券ニハ(其持參人ニ對シ直チニ正貨ト兌換スヘシ)云々ヲ明記スル_レヲ以テナリ

(入質信用貸) 入質信用貸トハ契約書外尙ホ抵當品及債證書或ハ商物等ヲ置ケル貸金ヲ謂フ

公債證券、商業證券、金銀屬ノ入質貸金ハ各銀行普通ノ營業ナリトス動産衣服諸雜具等ノ入質貸金ハ特ニ公立典物舖ノ營業ニ屬ス

商物入質ノ貸金營業ハ種々變遷シテ終ニハ賣買シ

得ヘキ證券ヲ發行スルニ至レリ故ニ倉庫會社政府ノ保護ヲ受ルモヲ大都會ニ設立シ製造人ノ產物預所ト爲セリ職工等モ亦各自ノ製造品ヲ以テ該會社ニ預ルコトヲ得ヘシ而シテ該會社ニ於テハ預リ品ニ對シ通常ノ商業證券ト均シク裏書ヲ要スレハ授受賣買シ得ヘキ受領證書ヲ交付ス該證書ハ物品ノ抵當アルニヨリ確實ナルモノトス故ニ製造人ハ未タ實際其物品ヲ賣却セサルモ其代價ヲ得テ之ヲ使用スルコトヲ得ルナリ但シ屢々會社ニ於テ其賣捌ヲ擔當スルコトアリ然ルニハ定期ニ至リ製造人ト其決算ヲ爲スヲ以テ通例トス

(不動産入質ノ信用貸) 不動産入質ノ信用貸ハ動産

或ハ商物ニ對スル信用貸ニ彷彿タルモノトス即チ動産ノ入質ニ於テ其賣却代價ニ關スル自由權ノ債主ニ屬スルカ如ク不動産ノ入質ニ於テ其保證ニ當ラタル抵當物ノ代價上ニ關スル自由權ハ債主ニ屬スルナリ

然レモ以上二種ノ信用貸ハ大ナル殊別アルモノトス何トナレハ動産ノ入質事件ハ商法ノ範圍内ニ於テ之ヲ處分シ得ヘキモ不動産ノ入質ニ在テハ民法ニ係ハルモノナレハナリ故ニ若シ債主ノ定期前ニ於テ其貸金ヲ他ニ繰替ヒテ之ヲ使用セント欲スルモ頗ル困難ナリ而シテ定期ニ至リ其償却ヲ促サン爲メ屢不動産ヲ引取サルヲ得ス抑不動産賣買上ノ

訴訟ハ其判決ニ至ルノ間概シテ夥多ノ日月ヲ要スルノミナラス其手續頗ル繁錯ニ涉リ困難ナルコト多シ

前條ノ如キ慣例ニヨリ公正官或ハ地方銀行ハ從來實行セシ不動産入質ノ貸金營業上ニ於テ其媒介タルニヨリ各禮ニ過當ノ手数料ヲ強取セシテ以テ資本者ハ自由ニ其貸金ヲ融通スルコトヲ得ス而シテ其抵當不動産ノ負擔ヲシテ重カラシメタリ此ノ如キ弊害ノ生セシヨリ政府ハ一千八百五十二年二月廿八日ヲ以テ數多ノ不動産貸金會社ヲ設ケ各借主ヲシテ容易ク債ヲ起サシメ貸主ヲシテ自由ニ其資本ヲ運轉セシメリ而シテ該會社ニ與フルニ營業ノ

特許ヲ以テセリ該會社ノ目的ヲ略説スレハ左ノ如シ

抑該會社設立ノ目的タルヤ一問題ニシテ即チ自由ニ貸與ノ資本ヲ運轉シ且ツ永期償還ノ目的ヲ以テ貸與ヲ行フニ在ルナリ

此目的ヲ達セシニハ貸借兩主ノ間ニ於テ確實ナル媒介者ヲ立テ之ヲシテ各人ノ契約ヲ確證シテ公眾ノ許諾スヘキ捺印ヲ捺セシムルヲ以テ肝要トス此媒介者ハ即チ質物ノ保護者ナルニヨリ其利益上ノ事務ヲ保固ニシ賦金ヲ領取スルヲ以テ借主ニ對シテ每年少額ノ賦金ヲ償還シ以テ永期皆済スヘキノ便ヲ與ヘ貸主ニ對シテハ毎年相當ノ利益ヲ取得セシ

ムルヲ以テ貸主ハ必ラス其心ヲ勞スルヲナク出金
スルニ至ルヘキナリ
此媒介者ハ宜シク政府或ハ商會(資本者)ヲ用テ之ニ
充ツヘキモノトス佛蘭西ニ於テハ政府ノ保護及ヒ
監視ヲ受ル一商會ヲ以テス其總裁及ヒ副總裁名ニハ
官撰ニ係ルモノトス
此商會ハ資本者ヨリ金ヲ預リ之ヲ希望者ニ貸與ス
其償還ハ二十年乃至五十年間ヲ以テ皆済利息ヘ
キ計算ヲ立テ貸主ヲレテ毎年其賦金ヲ取得セシム而
レテ商會ハ資本者ニ對シテ毎年自ラ其利子ヲ仕拂フ
モノナリ又資本出額ニ對スル受領證書ハ相場會所
ニ於テ之ヲ授受買賣スルヲ得ルモノトス

銀行

金銀屬並ニ商業證券等ハ凡テ商物ニシテ其運轉融
通ハ即チ銀行ノ營業ニ屬スルナリ
「パンク」トハ原ト伊太利語ニシテ其意ハ机ト謂ヒル
義ナリ中古伊國市街ノ各所(商估等ノ輻湊地)ニ於テ
各商估殊ニ貨幣兌換商等ハ「パンク」即チ机ヲ列シ其
上ニ於テ貨幣ノ受拂ヲ爲セリ而シテ該商估等ハ若
シ其商業上ノ齟齬ヨリ大損失ヲ來シ爲メニ契約ニ
違背シ受拂ヲ停止スルニ當リテ破産ヲ公証センカ
爲メ其机ヲ破壊スルヲ以テ慣例トスルニ因レリ倒
産ノ語モ蓋シ亦是ニ由來セリ
是ニ由テ之ヲ觀レハ「パンク」ナル語ハ唯タ貨幣ノ兌

換商業ニノ適用スルモノトス然レモ該商估等ハ其營業ノ性質ニヨリ資本者ノ依頼ニヨレハ睡眠ノ貨幣ヲ預リ之ニ相當ノ利潤ヲ附シ望ム者アレハ之ヲ貸與レテ相當ノ利益ヲ得ヘシ是ニ於テ該商估等ハ遂ニ變シテ貸借兩主即チ資本者ト各營業者トノ媒介人トナルナリ

近世商業證券ノ使用一般ニ廣布スルニヨリ兌換商ハ自然之ヲ以テ從來ノ營業ヲ爲スニ至レリ而シテ無抵當ノ貸金ヲ止メ爲換證券或ハ受拂證券ノ抵當ニ對シ其「エスコント」（期限前ノ仕拂ニ於テ減少スル利益）ヲ計算シ以テ金圓ヲ貸出シ且ツ其賣買ヲモ擔當スルニ至レリ

然リ而シテ兌換商業ハ該商業ノ廣布スルニ隨ヒ之

ナ數種ニ分離シテ各特業ヲ營メリ即チ或ル商會ハ真正貨幣ノ兌換ヲ止メ金錢貸借ノ便利ヲ計リ假令ハ貨幣ヲ以テ工業上ニ使用スルノ類商業証券ノ賣買ヲ擔當シテ各人ノ媒介者トナルニ至レリ故ニ特ニ該商會ニ「バンク」ノ名稱ヲ付スルノ慣習トハナレリ

是レ私立銀行或ハ公立銀行ニ於テ經營スル所ノ商業ナリ

公立銀行ハ許多ノ資本ヲ有シ一般商業上便益ヲ計ル爲メ設立スル所ニシテ世上ノ信用厚キニヨリ私立銀行ノ業務ヲ補助スルモノトス

又公立銀行ハ商業上ノ金融ヲシテ一層盛大ナラシメン爲メ有期商業証券ノ抵當ニ對シ銀行証券ヲ發

行スルモノトス
私立銀行ニ於テハ其抵當物タル商業證券上ニ其證
印ヲ捺シタル後再ヒ之ヲ融通運用スヘキ通則タル
モ公立銀行ニ在テハ然ラス抵當證券ハ凡テ之ヲ貯
藏シ其代券トシテ銀行證券ヲ發行シ其融通ヲシテ
便ナラシム故ニ公立銀行ハ更ニ貨物ヲ製造スルニ
アラスシテ融通不便ノ證券ニ對シ融通至便ナル代
券ヲ製造スルモノナリ然レハ則テ公立銀行ヲ稱シ
テ發行兼融通銀行ト謂フモ不可ナカルヘシ
公立銀行ハ一千二百年代ノ創立ニ係ハルモノニシ
テ其業務ハ特ニ貯金ニ止マレリ蓋シ當時全國各地
ニ通用セシ貨幣ハ其和量一定セサルニヨリ日常受

拂上大困難ナリシヲ以テ其便宜ヲ計リ該銀行ニ於
テ外國ノ貨幣ハ和量ノ多寡ニ準シ其量目ヲ以テ領
收シ之ニ對シ内國貨幣或ハ預リ證券ヲ交付セシ
アリ
商業上ノ受拂ハ此ノ如キ方便ニヨリ以テ之ヲ爲ス
コトヲ得ルニヨリ一商估ニシテ若シ仕拂ヲ爲サント
欲スルハ銀行ヘ宛テ其通知ヲ爲セハ正貨運轉ノ
手數ヲ省キ唯所有主ヲ變替スルノミヲ以テ之ヲ全
了シ得ヘシ但シ銀行ニ於テ相當ノ手數料ヲ領取ス
ルモノトス
此預金銀行ニ於テハ正貨ヲ運轉セス預リ證書ヲ使
用シテ其業ヲ營ムヲ習熟スルニ因リ更ニ歩ヲ進メ

ヲ預リ證券ノ使用ヲ廢棄シ銀行証券ヲ發行スルニ至レリ此証券ハ金塊貨幣並ニ各銀行ノ保証印アル爲換証券ノ交換ニ使用セシナリ故ニ該銀行ハ抵當額ヲ超過セシ多數ノ証券ヲ發行シ以テ「エスコント」及ヒ融通銀行トナレリ此融通銀行ハ其抵當額ヲ超過セル証券ヲ發行スルモ決シテ危殆ナルコトナキノ理由ヲ了スルニ焉ソ心慮ヲ煩ハスニ足ラシヤ証券所有者ニシテ正貨ノ必要ニ際スルカ或ハ銀行ノ營業上ニ疑心ヲ懷クハ其証券ヲ以テ正貨ト交換セシカ爲メ皆ナ爰ニ蝟集スルト假定セヨ然ルハ銀行ノ拂役ハ保証金即チ抵當額ヲ以テ出頭ノ順序ニヨリ之ヲ交換スルモ爲メニ幾何ノ時間ヲ費ヤスヤ又

時機ニヨリ拂役ハ時日ヲ長延スル爲メ徐々ニ之ヲ交換スルコトアリ此ノ如クナルハ証券額（發行ノ証券額ハ抵當額ノ三倍ノ限）ノ三分ノ一ハ現金ト交換スルヲ得ヘシ而シテ此時日内ニ抵當証券ハ悉ク満期期限ハ通例四十日以内トスニ及フヘキヲ以テ銀行証券或ハ貨幣ヲ以テ其償還ヲ爲シ得ヘシ銀行証券ヲ以テ返却セシキハ即チ証券ノ支拂ニ該當シ若シ貨幣ニテ返却スルキハ之ヲ以テ其支拂ニ充ツルヲ得ヘシ故ニ二ヶ月以内ニ於テ他三分ノ二ノ交換ヲ全了スルノミナラス銀行ノ資本ハ全ク金庫ニ還入スヘシ此旨趣ニ據レハ發行ノ証券額ニ定限ナキモ可ナルカ如レト雖モ決シテ然ラサレナリ商業上時トシテ

變災ノ發生スルヲアルヲ以テ其發行抵當額ヨリ多
數ナルト三倍ニ上ラサルヲ以テ良策トス
銀行ノ論說終ルニ臨ニ佛國ニ於テ現ニ設置セル信
用貸商會中ノ佛國銀行、不動産貸金會社及ヒ動産貸
金會社ニ就キ其要領ヲ略說セントス
(佛國銀行) 佛國銀行ハ特ニ商業商會ノミニアラス
政略上ノ機關ニシテ即チ政府ノ銀行ト謂フヘシ故
ニ其總裁及ヒ副總裁總名ニハ國長ノ除任ニ係ルモノト
ス
該銀行ハ政府ノ財政事務ヲシテ容易ナラシメ國庫
ノ欠乏ヲ補助シ或ハ政府証券ノ「エスコント」ヲ承諾
シ公務施行ノ境遇ニヨリ一時不用トナレル金額ヲ

預リ尙ホ且ツ巨萬ノ資本ヲ有スルヲ以テ政府証券
ノ相場ヲ維持シ之ヲシテ相當ノ價位ニ居ラシム
ルノ利益ヲ與フルモノナリ而シテ該銀行ハ保証金
トシテ其資本ノ一部分ヲ公債証券ニ交換シ置クモ
ノトス故ニ政府ハ該銀行ニハ証券發行ノ特許ヲ與
ヘ時宜ニヨリ法憲ヲ以テ貨幣ト同格ニ之ヲ通用ス
ヘキモノト制定スルコトアリ一千八百七十年及ヒ七
十一年間政府ノ銀行ヨリ負債スル金額三億萬法ニ
減少シタル如キ境遇ニ於テハ証券ノ保証價位ヲ廢
止セスシハアルヘカラス
一千八百五十七年六月九日ノ法憲ニヨレハ佛國銀
行ハ每縣一ノ支店ヲ設置スルノ義務ヲ有ス

近世ニ至リ佛國銀行ヲ以テ大藏省ニ付屬シ該銀行
ヲシテ英國ニ於ケルカ如ク國庫ノ歲入及ヒ國債ノ
支拂ヲ擔當セシムルノ論議紛起セリ然ルモ其數多
ノ官吏ヲ減少スルヲ以テ國費ヲ節減スルハ論ヲ俟
タス然リト雖モ該銀行ハ信用貸ヲシテ容易ナラシ
ムルノ目的ヲ以テ設置シタルモノナレハ之ヲ變更
シテ大藏省ノ支局ト爲スルハ商業上ノ盛衰ニ大關
係ヲ有スルノ恐レアリ故ニ該論旨ハ姑ク不問ニ關
クニ至レリ

佛國銀行ヲ以テ單ニ商工業ノ信用貸ヲ管掌スルモ
ノト看做スルハ其業務實ニ廣大無邊ニ涉レルナリ
之ヲ列舉スル左ノ如シ

- 一 身元信憑スヘキモノ、署名ヲ有シ且ツ期限
九十日以外ニ涉ラサル確實ナル證券ノ「エス
コレト」ヲ爲ス
- 二 證券等ノ保護預リヲ擔當スル
- 三 各人或ハ各銀行等ノ計算上ニ於テハ正貸ヲ
領取スル
- 四 公債證券並ニ確實ナル商業證券等ノ抵當ニ
對シテ貸金ヲ爲ス
- 五 預リ金額以内ニ在テハ其振出證券ノ支拂ヲ
擔當スル
- 六 諸証券、金銀、金剛石及ヒ金銀貨幣ノ預リ金
庫ヲ所有スル

該銀行ハ實況ニ隨ヒ自由ニ「エスコント」及ヒ貸金ノ價格ヲ定ムルコトヲ得ヘシ其目的ハ蓋シ英國銀行ニ於ケルカ如ク貸金ノ利子ヲ昂騰シ以テ發行證券ノ多寡ニ準シ在庫金運轉ノ權衡ヲ保ツニアリ即チ在庫金額減少スルハ「エスコント」ヲ騰セ其増加スルハ之ヲ低落スルモノナリ故ニ證券ノ發行員數ハ反對ノ増減ヲ呈ハスモノナリ

該銀行ニ於テハ預リタル貨幣ニ對シ毫モ利子ヲ付セサルモノトス蓋シ事務上ノ繁雜ヲ避ケンカ爲メニ設ケタル方法ナレトモ信用貸ノ好味ヲ國內ニ廣布スルニ妨害ヲ與フルニヨリ顧客ニキ醜毀誹謗ヲ受ケタリ「エコス」英國各銀行ニ於テハ預リ貨物ニ對シ

過當ノ利子ヲ付與ス

佛國銀行ノ資本金ハ之ヲ分チテ額面一千法ノ株券ト爲ス而レテ其金額ノ半數即チ一億萬法ヲ以テ豫備金トナシ以テ公債證書ニ代ヘ準備スルモノトス而シテ該銀行ニ於テハ尙ホ巨大ノ價格ヲ有スル不動産ヲ所有ス

佛國銀行ノ經理ハ株主總會ニ於テ其株主中ヨリ撰舉セシ十五名ノ役員ニ之ヲ委任ス(内三名ハ大藏省出納官中ヨリ撰舉ス)而シテ該役員外尙ホ三名ノ監督員及ヒ國長ノ除任ニ係ル總裁一名副總裁二名置ク

證券ノ發行事務ハ監督員ノ監視ニ屬ス其額ハ法憲

ヲ以テ三兆方法ト制定ス
(不動産貸金會社) 既ニ陳述セシ如ク不動産貸金會社ノ目的ハ貸金ニ對スル抵當品ヲシテ自由ニ運轉セシメ借主ヲシテ永期限ニ於テ年賦ヲ以テ之ヲ返償セシムルニ在リ而シテ該會社ノ資本額ハ六千万法ト定メ而シテ貸金ニ對スル額面ノ證券付利子ヲ發行スヘキ特許ヲ有ス
該會社ニ就キ負債ヲ請フ者ハ不動産所有證券及ヒ其證明證書ヲ持參スルモノトス會社ニ於テハ之ヲ調査確認シタルノ後十金圓ヲ貸出スルモ其價值半額以上ニ至ラサルヲ以テ例トス但其額ハ一人ニ就キ一百万法ヨリ多カラス三百法ヨリ少ナカラサルヘ

借主ハ會社ニ對シ二十ヶ年以外五十ヶ年以内ノ期限ニ於テ全償スヘキ計算ニヨリ現貨ヲ以テ年賦子利返償ノ契約ヲ爲スヘシ但シ百法ニ就キ三法ノ手數料ヲ支拂フハ期限ニ拘ハラス全償スルヲ得ヘシ
借主若シ年賦金ノ支拂ヲ爲サス滿期後一ヶ月ヲ經過スレハ會社ニ於テハ直チニ其全額返償ノ督促ヲ爲ストテ得ヘシ此境遇ニ於テハ借主ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却スルモ其手續ハ普通ノ規則ニ反シ最モ容易ナルモノナリ
(不動産貸金會社) 不動産貸金會社ハ不動産貸金會社ト

其目的ヲ異ニス其業務ヲ列記スルコト左ノ如シ

- 一 一般ノ商業證券等ニ檢印シ或ハ之ヲ買收スルコト
- 二 抵當物ノ貸金ニ對スル證券ヲ發行スルコト
- 三 買收シタル證券ヲ賣却シ或ハ交換スルコト
- 四 諸負債或ハ工事ヲ請負セ他ニ之ヲ委任スルカ或ハ自負スルコト
- 五 証券等ノ抵當ニ對シ貸金ヲ爲スコト
- 六 取引上現金ヲ領収スルコト
- 七 工業會社金錢ノ出納ヲ擔當スルコト
- 八 諸証券ノ預リ金庫ヲ有スルコト

該會社ノ資本金ハ其創立布告ヲ以テ六千方法ト定

メリ而シテ之ヲ發行証券六億方法即チ資本ノ十倍保證ニ充ツルモノトス

是ニ由テ觀レハ該會社ハ最モ危險ノモノニシテ信ヲ措キ難キモノ、如シ試ニ思ヘ其創立布告ニ基キ証券ヲ發行スレハ會社ニ於テ資本金六千萬法ノ外尙ホ六億萬法ニ相當スル証券ヲ所有ス該証券若シ百法ニ就キ十法ノ低落ヲ來シタルキハ其所有主ニ與フル保證金額ハ既ニ消盡ニ屬スヘシ又百ニ就キ二十ノ低落アルキハ其所有主ハ百ニ就キ十ノ損亡ヲ受クルニ至ラン一千八百四十八年ニ於テ百ニ就キ五十ノ低落ヲ呈ハシタルカ如キ境遇ニ在テハ其所有主ハ百ニ就キ四十ノ損亡ヲ見ルニ至ルヤ必然

ナリ

諸証券ノ賣買

公債証券及ヒ工業會社ノ証券ハ固ヨリ眞價ヲ有セサルモ一國ノ財位ニ居リテ著大ノ價值ヲ現ハスモノタリ而シテ該証券等ハ「プールズ」ト稱スル相場會所ニ於テ之ヲ賣買交換レ得ヘキモノトス

故ニ其賣買交換等ノ所爲ヲ略説スルヲ以テ緊要トナス

(世話人) 公債証券及ヒ工業會社証券ノ賣買ハ「ブッシュ、ド、シヤンジュ」ト稱スル役員ノ媒介ニヨリ相場會所ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ通例トス

世話人ハ定員アルモノニシテ政府ノ除任ニ係リ且ツ保証金ヲ上納スルモノトス

(巴里府ニ在テハ其定額ヲ十二萬五千法トス) 而シテ

巴里府ノ定員ハ六十名ニシテ之ヲ組合ト爲シ該取締所ノ監視ニ屬ス取締所ハ世話人ノ進退ヲ掌ルヲ以テ時機ニヨリ其職務ヲ停止シ或ハ免職スルヲ得ヘシ且ツ其就職ニ當リ規則ヲ遵守スヘキヲ誓ハシム

世話人ハ自己ノ爲メニ一ノ商業ヲ營ムヲ得ス而シテ其管理セシ所ノ事務ハ凡テ之ヲ帳簿ニ記載スルヲ要ス何トナレハ該帳簿ハ裁判上効力ヲ有スルモノナレハナリ

商法發布以來世話人ノ管掌ニ屬スヘキ業務逐次増加セシテ以テ爲換証券及ヒ金銀兩儀ノ賣買等ハ之ヲ他人ニ委セ世話人ハ唯々其相場ノミヲ公證スル

ニ至レリ

世話人ハ外國公債等ノ賣買ニ於テハ百法ニ就キ一
法ノ四分ノ一内國公債等ハ百法ニ就キ一法ノ八分
ノ一ヲ以テ其手数料トシテ之ヲ領收ス但シ手数料
ハ公債證書ノ賣買ニ在テハ其額面他ノ證券ハ實價
ニヨリ算出スルモノトス

(直取引) 直取引ノ賣買ハ確實ニシテ彌久資本ヲ預
クル目的ニ外ナラスト雖モ諸證券價值ノ昂低ニヨ
リ其利益ヲ得シカ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘ
ハ騰貴ノ目的ニ在テハ之ヲ買收シ低下ノ目的ニハ
之ヲ賣却シ其先見ノ的不的ニヨリ賣買上ノ損益ヲ
受クルモノナリ

直取引ハ最も確實ナル方便ナルモ毎子ニ夥多ノ閑
遊資本ヲ要スルヲ以テ眞ノ相場業ニ的セサルナリ
故ニ相場師ハ定期契約ニ於テ其賣買ヲ爲スニ至レ

(定期契約ノ賣買) 定期契約ノ賣買ヲ分テ確實契
約ノ賣買及ヒ自由即チ手付入金契約ノ賣買ト爲ス
確實契約ノ賣買ニ在テハ相場師ハ月末或ハ定期ニ
拘ハラズ取引ノ契約ヲ以テ公債證書或ハ諸證券ヲ
買收シ而シテ月末ニ至リ其價值昂貴スルハ該證
券ノ交付ヲ請フカ或ハ新相場ヲ以テ之ヲ賣却シ其
差額即チ若干ノ利益ヲ得ヘシ賣主ハ其相場ノ月末
ニ至リ低落スヘキ目的ヲ以テ賣却セシモノナレハ

其相場ヨリ低價ナル證券ヲ買收シテ之ヲ買主ニ交
付スルヲ得ヘシ然ルモハ買主ニ於ケル如ク若干ノ
利益ヲ得ヘシ
然レモ定期賣買ハ實際證券ノ授受ヲ要スルコトナク
唯其相場上ノ差金ノミヲ受拂ヒスルヲ以テ通例ト
ス
前述ノ如ク定期賣買ノ契約ハ月未或ハ定期ニ拘ラ
ス其授受ヲ爲スヘキノ明文ニ基キ期限内買主若シ
其證券ヲ受領セント欲セハ世話人詰所内ノ揭示ヲ
賣主ニ告知セル當日ヨリ五日ヲ經レハ之ヲ請求ス
ルノ權ヲ有ス此ノ如キ授受ヲ名ケテ定期前ノ契約
ヲ「エスコント」スルト謂フ此ノ境遇ニ際シ賣主若シ

證券ヲ所有セサルモハ直チニ之ヲ調達セサルヲ得
ス故ニ其價格ニ拘ハラズ之ヲ買收スルニヨリ隨テ
其相場ヲシテ騰貴ナラシムヘシ此方法ハ許多ノ資
本ヲ有スルモノ相場ヲシテ騰貴セシムル爲メニ施
ス策略ナリ
定期賣買ノ契約ハ月未ノ取引ニ據テ全了スルモノ
トス蓋シ公債證書ハ定期ノ翌月初日ニ於テシ鐵道
會社ノ證券ハ十五日及ヒ未日ノ兩度ニ於テス此業
務ハ世話人ノ管理ニ屬スルコト契約ニ於ケルカ如シ而
シテ日數四日間ニ局ヲ結フモノトス故ニ買主ハ證
券ノ受領ヲ爲スコト翌月初日ニ於テスヘシ若シ其遲
延シテ翌日ニ至ルモハ買主ノ損益ニ拘ハラズ之ヲ

賣却スルヲ以テ通例トス又賣主ハ證券ヲ交付スル
一四日間ニ於テスヘシ若シ其遲延シタルハ其損
益ニ拘ハラズ之ヲ賣收シテ買主ニ交付スルモノトス
但シ既ニ陳述シタル如ク實際ニ於テハ唯々相場ノ
差金ノミヲ以テ受拂ヒラ爲シ之ヲ全了スルモノトス
自由即チ手付金ヲ授受スルノ契約ハ確實契約ト全
ク其性質ヲ異ニス即チ自由契約ハ買主ヨリ保證ト
シテ若干ノ手付金ヲ付シ其限月ニ至リ若シ相場下
落シタルハ其損亡ノミニテ解約シ得ヘシ若シ相
場騰貴スルハ契約ヲ保續シテ其利益ヲ得ル等全
ク買主ノ自由ニ委スルモノナリ
又賣主ヨリ手付金ヲ付スルノ自由契約アリ其事由

ハ全ク前條ニ異ナルヲナント雖モ解約等ノ自由權
ヲ以テ賣主ニ歸スルモノトス
自由契約ニ在テハ各月未ニ至リ賣主ハ其買主ニ照
會スルニ契約保續ノ有無ヲ以テシ其應答ナキハ
手付金ヲ收得ス若シ其答辨アルハ自由契約ヲ變
更シテ確實契約ト爲ス

配財

配財トハ殖財ノ各器械即チ勞力及ヒ資本ニ對スル
報酬トシテ財ヲ分配スルノ方法ヲ謂フ故ニ最も緊
要ナル二問題即チ貸銀並ニ資本ノ利益ニ關スル兩
件ヲ茲ニ研究セサルヲ得ス

貸銀

賃銀トハ努力ノ報酬ヲ謂フ故ニ奴僕ノ給料、官吏履人ノ月俸、代官人醫師ノ謝禮等ハ即チ賃銀ニ外ナラス博識者、諸請負人、職工ノ努力ハ資本ニ屬スル取入ノ外尙ホ特別ノ報酬ヲ受クヘキモノトス蓋シ或ル職業ハ資本ニ頼リ得タル所ノ學識及ヒ技術ヲ要ス故ニ其報酬料ハ資本ノ利益ヲ含有スヘキニヨリ賃銀ノ名稱ハ獨リ職工作業ノ報酬ニノミ用井ルヲ以テ至當ト爲スナリ此論旨ニ基キ聊カ労働ニ對スル賃銀及ヒ職工ノ生活上ニ關係ヲ有スル事項ヲ講究スルヲ左ノ如シ

夫レ一工業ヲ興起セント企圖スルニ當リテ資本者ハ資本ヲ出レ職工ハ作業ニ從事シ其成功ニ至リ互

ニ其利益ヲ分取スヘシ然レモ其配當ノ事項ハ姑ク之ヲ擱キ茲ニ一言ヲ要スルハ他ニアラス資本者ハ一工業ノ企圖ニ關シ許多ノ資本ヲ出シ其成功ニ至ルノ間生活上ニ困難スルコトナク其利得ヲ俟ツヘキモ職工ハ然ラス前金ヲ得ルニアラサレハ其成功ニ至ルノ間殆ト生活ヲ支ヘルコト能ハス是ニ由テ職工ハ資本者ニ對シ左ノ言ヲ發ス吾人ノ資本ハ唯タ労働ニ限ルヲ以テ事業成功ノ上其利得ノ配與ヲ待ツコト能ハス故ニ後來ノ利益ニ對シ若干ノ前金ヲ貸與セヨ然ラハ該事業成功ノ上幾何ノ利益アルモ敢テ其配當ヲ受ケス又損失アルモ之ニ關セサルナリト故ニ職工ノ賃銀ハ事業成功ノ上其利益ノ配當ニア

ラスシテ確實タル給料トナルナリ職工ハ此給料ヲ
得テ日々ノ生計ヲ支フルヲ以テ其成功ノ上假令何
等ノ損失アルモ其労働ハ決シテ無益トナラサルハ
明カナリ
若シ該工業成就セス半途ニシテ廢止シタルハ皆
タニ諸器械等ニ費消シタル金額ノミナラス職工ニ
給與シタル賃銀等ハ皆テ資本者ノ損失ニ屬スルナ
リ
(賃銀ニ關スル定則) 物品ノ價值及ヒ相場ニ關スル
法則ハ賃銀ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス
夫レ賃銀ハ職工ノ食料、教育及ヒ修技等ニ要シタル
消費ニ據テ定マルモノトス該消費ノ報酬若シ不相

當ナルハ職工ハ常ニ損亡ヲ受ケ遂ニ大困難ニ陷
井ルヘシ故ニ其報酬ハ若干ノ餘財ヲ與ヘ其生計ヲ
シテ餘裕ヲラシメ且ツ其殖財力ヲ増加セシメ而シ
テ前陳ノ消費ヨリ稍ヤ過度ノ豫算ヲ以テ其報酬額
ヲ定メシトテ要ス
又職工ノ賃銀ハ請求及ヒ依頼ノ多寡ニヨリ定マル
モノトス即チ賃銀ハ職工ヨリノ請求許多ナルハハ
低落シ請負人ヨリノ依頼許多ナルハ昂貴ス但シ
第二ノ境遇ニ在テハ主トシテ工業ニ用井ヘキ資本
ニ關係アルヲ以テ賃銀額ハ睡眠資本ノ多寡ニ屬ス
ルモノト謂フヘシ
前陳ノ定則ニ準據シ賃銀額ニ變更ヲ來スヘキ事項

ヲ舉レハ即チ國家ノ靜謐、安全、食料、修技入費及ヒ人
民ノ多寡等是レナリ
凡ソ賃銀額ハ人口ノ多寡ニ準レテ昂低シ且ツ工業
ニ使用スル資本ノ多寡ニ關係チ有スルモノトス故
ニ人民ノ増殖若レ資本ノ増加ニ超過スルハ其賃
銀ハ昂貴スルナラン人民ノ増殖ト資本ノ増加トニ
於テ權衡其當ヲ得サレハ隨テ其賃銀ハ低落スヘシ
又食物ノ價格ハ人民ノ増殖ニ隨ヒ逐次騰貴スヘシ
然レモ需用物ノ數量ハ概ソ定限アルモ其請求者ノ
漸次増加スルニ準シ職工ノ修技入費ニ増加シ來ス
ハ理ノ當然ナリ故ニ職工員數ノ増加、賃銀ノ減少並
ニ食物ノ増加等ハ同時ニ其最上限ニ達スヘキノ時

期アルヘシ
此時ニ職工ノ賃銀ハ全ク其當ヲ得サルニヨリ其生
計ヲ營ムト果シテ難カルヘシ此理アルヲ以テ人類
繁殖ヨリ生計上ニ來スヘキ危難ヲ論說スル經濟學
者ハ喟然トシテ嘆息ノ聲ヲ發スルニ至レリ就中英
國ノ「マルチウス」氏ノ算計ニヨレハ食物ノ増加ト人
口ノ増殖トヲ比較スルハ其權衡ヲ得ス即チ人民
ノ増殖ハ食物ノ増加ニ數倍スルヲ以テ大饑饉ニ遭
フノ期ハ將ニ近キニアラントスト
此計算ハ正當ノモノニアラス何トナレハ戰鬪或ハ
傳染病等ニヨリ數多ノ人命ヲ失フトチ算セス又世
界中猶ホ許多ノ荒蕪地アルヲ計ラサレハナリ故ニ

此計算ハ特ニ各國政府ヲシテ食物ノ増殖ヲ計リ饑饉ノ災害ヲ未發ニ豫防セシムヘキ告示ト思考スルノ他其効ナカルヘシ

從來職工ノ賃銀ヲ定ムルハ政府ノ任ニ屬スヘキトノ思考ヨリシテ政府ハ權ニ之ヲ昂低スルヲ試ミタリキ然レモ賃銀額ヲ定ムルハ自ラ商物ノ相場ヲ定ムルト同理ニ歸スルナリ意ヲ茲ニ注カサリシハ大ナル誤謬ト謂フヘクシテ爲メニ工業社會ニ困難ヲ與ヘタルヲ頗ル大ナリトス

是ニ由テ之ヲ觀レハ職工ノ賃銀ヲ定ムルハ各自ノ自由ニ委セサルヲ得ス職工等ハ資本者ト熟議シ雙方ノ利益ニ基キ之ヲ定ムヘシ在昔賃銀上ニ關スル

請負人並ニ職工等ノ徒黨ハ法憲ニ據テ之ヲ處罰セシモ方今ハ之ヲ認可スルニ至レリ蓋シ請負人ハ相互ニ熟議シテ賃銀額ヲ定ムルヲ得ヘク職工モ亦相議シテ之ヲ請求スルヲ得ヘシ但シ雙方ノ熟議整ハサルキハ互ニ工業ヲ停止スルヲアルヘシ

職工社會ニ徒黨ノ自由ヲ與フル實際上ノ可否如何ヲ問フモノアラシニ吾人ハ之ニ對フルニ決シテ其可ナルヲ以テセサルナリ然レモ理論上ニ於テ賃銀額ヲ定ムルハ其自由ニ任ヌルノ原則ニ基キ之ヲ可トセサルヲ得ス職工ヲシテ此ノ如キ徒黨ヲ爲サシムルキハ社會ニ於テ實際大困難ヲ生スルヲ明カナ

(職工仲間) 現今實行ノ請負法ヲ廢シ職人仲間ヲ資
クヘキ方法ヲ施行センコトヲ試ミタルコト屢ナリキ
該方法ハ請負人ヲ擯斥シテ工業ノ竣功スルニ至リ
其利益ハ悉皆職工ニ配當スルニアルナリ而シテ此
ノ如ク請負人ノ得ヘキ利益ヲ減省スルハ職工ハ
其賃銀隨テ増加スルニヨリ其生活上餘分ノ幸福ヲ
享受シ加之殖財力ヲ増加スヘキトノ思考ニ基ケリ
然レモ此ノ如キ考案ハ理論上ニ於テ可トスヘキモ
其利害得失ヲ論スルハ實際上爲メニ危難及ヒ困
窘ヲ生スヘキハ深慮ヲ要セスシテ之ヲ了解スルヲ
得ヘシ
一般ニ請負人ヲ以テ常ニ巨利ヲ占有スルモノト思

考スルハ是レ大ナル誤謬ト謂ハサルヲ得ス何レノ
職業ニ論ナク必ス競争者ノアルヲ以テ請負人免許証
ヲ有ス
ハ請負人ハ此
限ニアルスノ利得ハ決シテ工事使用ノ資本及ヒ其勞
力報酬ノ額ヨリ踰越セサルモノナリ例ヘハ工事宜
キヲ得巨利ヲ得ルモノ一人アルハ損益相償フモノ
十人アルヘシ而シテ此内少クモ一人ノ破産者ノ生
スルヲ以テ通例トス
又一工事ヲ指揮スル請負人ハ諸職工及ヒ諸機械等
ヲ準備シ自ラ工業ノ損益ヲ負擔スルヲ以テ職工ヲ
シテ可成的其作業ヲ勉強セシムルノ術策ヲ要スル
ノミナラス而シテ其之ヲ竣功セシムルニ自ラ優等ナル
學識及ヒ技術ヲ要セサルヲ得ス故ニ學識等ハ其相

當ノ報酬ヲ受クルヲ以テ至當トナス
職工仲間ノ方法ニ由テ一工業ヲ企圖スルキハ其仲
間中ニ於テ技術ノ優等ナル一人ヲ撰ヒ其指揮ヲ委
セ原材料ノ買取製造物ノ販賣等恰モ請負人ノ從事ス
ヘキ業務ヲ以テ之ニ負擔セサルヲ得ス而シテ利益
ヲ該指揮者ニ配附スルニ相當ノ比例ヲ以テシ其殘
餘ヲ以テ他ノ職工ニ分配スルキハ何ソ通常ノ賃銀
ニ異ナラシヤ然リ而シテ指揮者ノ勵精ハ一個ニシ
テ負擔スル請負人ニ比スレハ稍ヤ劣ルニ至ルヘシ
何トナレハ其損益ハ一個ニテ之ヲ負擔セサレハナ
リ
此方法ニ由レハ職工等ハ屢履氷臨淵ノ危險ヲ冒サ

、ルヲ得ス故ニ假令職工仲間ノ方法ニヨルモ工業
上饑饉トモ謂フヘキ景況ノ發起スルヲ防遏スルコ
能ハス而シテ工業上些少ノ損失ヲ醸生スルコアル
モ職工ニハ最モ大ナル感動ヲ與フルモノナリ請負
人ニ在テハ僅少ノ損亡ハ之ニ耐ヘ得ヘキモ職工等
ハ固ヨリ薄少ノ資本ヲ所有スルモノナレハ忽チニ
シテ零落スルコト必然ナリ
是ニ由テ之ヲ觀レハ職工仲間法中ニ於テハ分配ト
稱スル規約法ヲ以テ最良トナス該法ハ其業務普通
ニ異ナルコトクシテ請負人ハ工事ニ要スル材料ヲ
準備シ職工ヲシテ労働セシメ日々其賃銀ヲ給與ス
然レモ其工業ノ成功ニ當リ賃銀外尙ホ利益金ノ比

例ニ準的シ職工等ニ相當ノ賞與金ヲ給與ス例ハハ
鐵道會社ニ在テハ火夫焚用ニ於テ節儉シ餘セル石
炭ノ數量ニ準シ火夫ニ賞與金ヲ給シ鑛山事業ニ在
テハ該工夫ニ採掘鑛物ノ代價百ニ就キ若干ノ賞與
金ヲ與フルカ如シ
此方法ハ職工ヲシテ其智識ヲ發達セシメ又請負人
及ヒ職工ヲシテ利益ヲ生スヘキ勉強心ヲ奮起セシ
ムルモノナリ蓋シ此法ニ據ルルハ職工等ノ目的ハ
唯タ利益ヲ得ルノ一點ニ止ルト雖モ眞ノ職人仲間
法ニ於テハ損益ニ關係ヲ有スルモノナリ
資本ノ利子及ヒ損料
夫レ殖産ハ労働ト資本トノ合力ニ因テ成ルモノナ

リ故ニ労働ニ於ケル報酬ト均シク其資本ニ於ケル
モ亦相當ノ利益ヲカルヘカラス然リ而シテ殖産上
供用ノ報酬トシテ得タル資本ノ増殖ハ之ヲ總稱シ
テ利子ト謂フ然レモ特ニ流動資本ノ利益ニノニ利
子ノ名稱ヲ附シ土地器械等ノ如キ不動資本ノ利益
ハ之ヲ其損料ト稱ス
資本者ニシテ自カラ其資本ヲ使用スルルハ專ラ其
殖産上ノ利益ヲ有スヘシ故ニ資本百ニ就キ若干ノ
利子ハ其労働ノ報酬ト俱ニ混受スヘキヲ以テ其結
果宜キヲ得レハ社會ニ與フル利益モ亦大ナルヘシ
然レモ資本所有者ニシテ自ラ之ヲ使用セス之ヲ他
ニ貸與シ相當ノ利益ヲ得レトナ圖ルニ當リテハ貸

借兩主ノ間ニ於テ自然其契約ナカルヘカラス此契約ニヨリテ相互ノ義務及ヒ權利ヲ生スルナリ熟々社會ノ状態ヲ通觀スルニ居多ノ資本ヲ有スルモ之ヲ運轉使用スルヲ望マス或ハ之ヲ使用スルヲ能ハサルモノアリ又資本ノ力ヲ藉ルニアラサレハ労働ニ從事スルヲ能ハサル者アリ是レ資本者ト労働者ノ間ニ於テ貸借契約ノ起レル原因ト謂フヘシ「貸借兩主ハ斯ノ契約法ニ循ヘハ爲ニ鴻益ヲ受ヘキ」明カナリ即チ資本所有者ニ於テ徒ラニ之ヲ貯蓄スルキハ一ノ利子ヲ生セサルモ之ヲ貸與スルキハ相當ノ利潤ヲ得ヘキヲ以テ特ニ其財ヲ殖スルノミナラス安居シテ家事ヲ經營スルヲ得ヘシ又労働者

ハ曾テ其有セサル資本ヲ使用シ得ヘキヲ以テ其意ノ如ク労働ニ從事スルヲ得ルナリ故ニ貸借ノ契約能ク資本者ト労働者トノ間ニ整理スルキハ社會ニ於テ益々財産ノ増加ヲ來スヘシ若シ之ニ反スル境遇ニ在テハ社會ノ財産ハ漸次消費シ人民ハ遂ニ如何シノ惨狀ニ陥ルヤ計ルヘカラス資本者ハ前陳契約ノ貸借ニ在テ一時他ニ其所有權ヲ貸與スルノミナラス若シ借主ニシテ惡意アレハ資財ヲ減少スルノ危念ヲ懷ケルモノナリ故ニ借主ハ資本者ノ貸金ニ對シ資金ノ利子外尙ホ報酬トシテ相當ノ財ヲ附與スルヲ以テ至當トス夫レ資本ノ使用ヲシテ自由ヲシメント欲セハ其

所有主自ラ其出貸ヲ希圖セサルヲ得ス而シテ此希
圖上ニ變動ヲ來スヘキ事項ハ其利子ノ相場ニ關シ
多少ノ影響ヲ及ホスモノナリ即チ社會ノ安全、貸借
義務ニ關スル法憲及ヒ風習、借主ノ保証等ハ該事項
中ニ算入スヘシ故ニ利子ノ相場ハ所有物權ヲ尊敬
シ契約ニ關スル法憲ヲ遵守スル邦國ニ於テ他ニ比
スレハ稍ヤ低下ナリトス厚ク借主ヲ信スルモノハ
薄利ヲ以テ之ニ貸與スルハ是ノ理ニ由ルナリ短期
ノ貸與ニ於ケルモ亦然リトス
資本ノ利子ヲシテ昂低セシムル事項ヲ舉クレハ左
ノ如シ
第一 貸借人ノ多寡

第二 貸金返償ノ危殆

故ニ利子額ハ自然ニ定マルモノニシテ法憲等ヲ以
テ之ヲ制限スルヲ能ハサルナリ佛國ニ於テハ一千
八百七年九月三日ノ法憲ヲ以テ商業上貸借利子額
ヲ制定シテ百ニ就キ六トナレ普通貸借ハ百ニ就キ
五トナセリ而シテ若シ此制定外ノ利子ヲ貪ルモノ
アレハ民法ニ照シテ返還セシメ若シ此犯則チ以
テ其常業トナスモノアレハ之ニ科スルニ罰金ヲ以
テシ又詐偽ニ原因シ高利ヲ貪リシ等ノ所業判明ナ
ルモノハ之ヲ檻倉ニ下ス
此利子制限法ハ正理ニ悖リタルモノト謂ハサルヲ
得ス故ニ其改正ヲ希圖セシトハ既ニ數回ニ及ヘリ

其理由ヲ列舉スルコト左ノ如シ
商業及ヒ普通ノ貸借ニ於テ其利子額ヲ異ニスルハ
何ソヤ
商估或ハ銀行ハ其貸金ノ利子外尙ホ手数料ヲ領收
スルハ豈ニ之ヲ騰貴スルカ爲メナランヤ且ツ假令
貸借兩主ノ熟議ニヨリ貸主ハ貸金額ヨリ過額ヲ其
契約書中ニ記載スルモ他ヨリ之ヲ妨クル者ナカル
ヘシ故ニ貸借上犯則者ノ法庭ニ現出スルコト甚々稀
ナリ
政府ニ於ケルモ其急需ニ際シ巨額ノ國債ヲ募集ス
ルニ當リ定則外ノ利子ヲ附與スルハ何ソヤ
斯ノ如キ政府ハ自置自犯ヲ免レサルヲ以テ此利子

制限法ハ到底有名無實ノモノタルコト明カナリ
故ニ少年輩ノ輕躁或ハ職工等ノ困迫ニ乘シテ妄リ
ハ巨利ヲ貪ル者ノ他犯則者ハコレヲササルヘシ
該法憲ニ因テ生ゼシ結果如何ハ既ニ公衆ノ了知セ
ル如ク貸金ノ利子ヲレテ反テ隣國ヨリ騰貴ナラシ
ムルニ至レバ何トナレハ資本者ノ貸與シタル金員
ハ特ニ其返價上危殆ナルノミナラス動モスレハ犯
則ヲ以テ裁判ニ訴ヘザル、等ノ配慮アルヲ以テ輕
忽ニ資本ヲ融通セザルニ至レハナリ是レ該法憲ノ
廢除ヲ希望シテ止マサル所以ナリ英國、白耳義、阿蘭
陀、西班牙等ノ各國ハ既ニ之ヲ除去セリ

第四 費財

費財トハ財ヲ消滅スルヲ謂フ社會ニ於テ財ヲ製造
スルハ凡テ人民ノ費消ニ供セシカ爲メナリ
費財ト殖財トハ常ニ反對表裏ノ現狀ヲ呈ハスモノ
ニレテ費財夥多ナルキハ隨テ殖財夥多ナルハ理ノ
官ニ然ルヘキ所ナリ然レモ財ノ費額ハ概ソ定限ア
ルヲ以テ此論旨ヲ擴張シテ遠ク浪費ニ及ホスルハ
反テ社會ノ爲メニ要債ナキ損亡ト謂フヘシ
費消ニ二種アリ一ハ殖財ニ出テ一ハ娛樂等ニ出ル
モノ是レナリ
又費消ヲ分テ一人一己ノ費消、社會一般ノ費消ナ
ル二種トス第一ノ費消ハ一家ノ經營ニ關シ必需ヲ
満足スルモノニレテ各其資産ノ分限ニ隨テテ異ナ

ルモノナリ然レモ之ヲ放逸奢侈等ニ費盡スルハ巨
萬ノ富者ニ於テモ猶不可ナリトス
一般ノ費消ハ一人一己ノ費消ニ於ケルト均シク要
債有無ノ費消トス而シテ社會ノ需用ニ準據シ之ヲ
區分シ以テ其額ヲ確定スルハ政府ノ任務トス故ニ
政府ハ社會必需ノ費消額ヲ確定統計シ以テ之ヲ充
足スヘキノ方便ヲ國民ニ依頼セサルヲ得ス此方便
ヲ分テテ國稅、國債ノ二途トス之ヲ解説スルト左ノ
如シ

國稅

國稅トハ政府ノ需用ヲシテ完全ナラシメンカ爲メ
國民收穫ノ一部分ヲ收納スルモノヲ謂フ夫レ政府

ハ其國民ヲ保護シ之ニ安寧康福ヲ與フルヲ以テ國
民ニ於テモ納稅ノ義務ヲ負擔セサルヲ得ス然レモ
徵課ハ固ヨリ人民ノ資産ヲ減少スルモノナルニヨ
リ若シ之ヲ賦セサレハ其資産ハ増加スヘキヲ以テ
可成的課稅ヲ低減セサルヘカラス
國稅ノ收入ハ數項ノ要點ニ準的セスンハアルヘカ
ラス
稅ハ凡テ人民ノ收穫ニノミ課賦スルヲ以テ至當ト
ス何トナレハ其資本ニ之ヲ課スルハ忽チ社會ノ
萎凋ヲ來スヘキハ論ヲ俟タサルナリ
國稅ハ一般ノ收穫上ニ課センコトヲ要ス
諸稅額、收納期限及ヒ其方法等ハ一般人民ヲシテ豫

テ之ヲ了知セシメンコトヲ要ス
可成的收納費用ヲ減省スヘキ方法ヲ設ケンコトヲ要
ス
人民ノ最モ便利ナル時期及ヒ方法ニ依テ徵收セン
コトヲ要ス
脫稅者等ヲ制センカ爲メ精密ナル稅則ヲ設ケンコ
トヲ要ス
國稅ハ齊一稅ヲ以テ可トスル乎比例稅ヲ以テ可ト
スル乎
齊一稅ハ甚タ其當ヲ得サルモノトス蓋シ人民中貴
賤貧富ノ別アリテ政府ヨリ保護ヲ受クルコト同一ナ
ラサルハ明カナリ故ニ比例稅ヲ以テ至當トナス

然ラハ稅額ヲ定メシハ單一比例、增加比例單一比例ニ

就キ若干ノ稅額ハ各人民ニ對シ均一ナリ增加比例ニヨリレハ百ニ就キ若干ノ稅額ハ資產ノ多寡ニ隨ヒ増減アリ

レハ百ニ就キ若干ノ稅額ハ資產ノ多寡ニ隨ヒ増減アリ

此問題ニ對シ數多ノ經濟家ハ增加比例ニヨリ稅ヲ

課スルヲ以テ可トセリ蓋シ此經濟家等ノ思考ハ富

饒者ニノミ課稅シテ貧困者ヲ免スルニアリ此稅則

ニヨレハ稅額漸次ニ増加シ百ニ就キ一二三ヨリシ

テ遂ニ百ニ就キ百ニ昇ルモノナリ實際此ノ如キ殘

忍ノ課稅ヲ施行スルハ國家ハ忽チ衰頽ニ至ルヘ

キハ論ヲ俟タスシテ明カナリ故ニ國稅ハ單一比例

ニヨリ賦課スルヲ以テ至要ト爲ス

國債

國稅ハ毎年徵收シテ其年度間ニ於テ悉皆之ヲ使用

スルヲ以テ若シ戰爭或ハ不慮ノ事故ニ際スルハ

爲メニ要スル費額ナクシハアルヘカラス故ニ當時

政府ハ國債ヲ募集シテ之ニ充ツルモノトス

政府ニ於テ急遽巨萬ノ金圓ヲ要スルハ負債ノ方

法ヲ以テ之ヲ募集スルハ便益最モ大ナルモノトス

何トナレハ財政上及ヒ國內ノ工業上ニ困難ヲ來ス

トナク反テ人民ノ貯金ヲ使用スルノ益アレハナリ

此國債償還ノ方法ニ至リテハ主トシテ國稅ヲ增加

セシハアルヘカラス故ニ國債ノ募集ハ人民ノ統

御上ニ聊カ影響ヲ及ホスヘシ

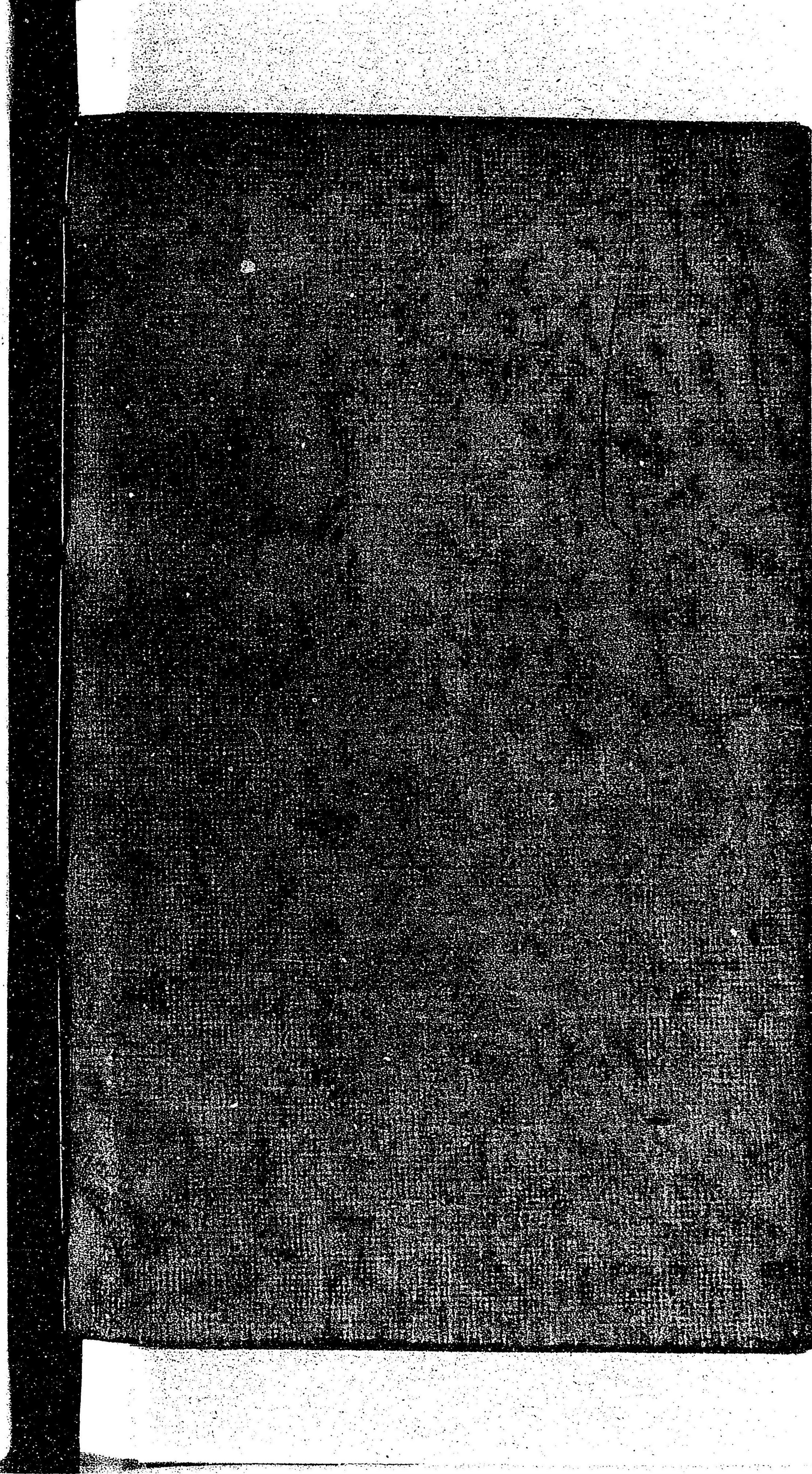
斯ノ如クナルヲ以テ國債募集ニ際シ其償還法ヲ計

較編成セスンハアルヘカラサルナリ
然レモ國債ノ募集ハ其國家靜謐ニシテ工業隆盛ナ
ル時期ニアラサレハ決シテ好結果ヲ現ハサ、ルモ
ノトス

佛 國 陸 軍 制 度 教 程 第 二 編 卷 之 一 終

較編成セスンハアルヘカラサルナリ
然レモ國債ノ募集ハ其國家靜謐ニシテ工業隆盛ナ
ル時期ニアラサレハ決シテ好結果ヲ現ハサ、ルモ
ノトス

佛 陸軍制度教程第二編卷之一終



15

36

(M)

東泉圖書

七册	三六号	二架	一五函	属	類
----	-----	----	-----	---	---

師範學校教員課程書第二編 卷之一